

③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用（企06）	企画情報部	63
専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（企07）	企画情報部	65
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	66
広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（企08）	企画情報部	67

文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用 (③企06-14-4/5)

目 的

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティ強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図る。また、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

成 果

1. 情報システムの整備

情報システムの整備は、広報委員会の情報システム部会長・部会員で検討のうえ実施している。平成26年度には日常的なネットワーク管理業務のほか、下記を実施した。

- ア) 平成26年度に更新時期を迎える機器はなかったが、27年度に保守期限切れとなるDMZスイッチの更新を実施した。また、奈良国立博物館との共同研究により撮影された高精細画像を同館との間で共有するためのサーバを導入、セットアップを行った（画像データの移行と整理・共有化は来年度に実施する）。さらに、電波状態に課題のあった所内の2箇所に対し、無線LANアクセスポイントを追加した。
- イ) ソフトウェア管理のためのシステム2種類を導入した。ひとつは、各端末のアンチウイルスソフトウェアを遠隔操作で更新するシステム、もうひとつは、各端末にインストールされているソフトウェアのライセンス番号やバージョン情報を管理するシステムである。管理サーバは、Wordpressの総合検索システムの導入に伴い不要となったサーバを活用し、物理的には1台のサーバに上記2システムの管理サーバの機能を持たせている。なお、この仮想サーバは、来年度受入予定の無形文化遺産情報ネットワークや神楽マップ等のサーバとしても活用する。

2. ウェブサイトの運用

研究所全体の広報、研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を行っている。各部・センターのサイトは各担当者が更新する一方、催事や刊行物等の更新情報は研究所ホームページからリンクし告知することで、情報発信の効率化と有効化を図っている。ウェブサイトの軽微な変更、データベースへの情報の追加、情報発信は随時実施している。

- ア) 活動報告（和英）や研究会等の開催情報などの広報について、また、文化財アーカイブズ研究室と連携しての文献や写真などの所蔵資料、研究成果の発信についてその手法の検討を行った。
- イ) 黒田記念館の再オープンにあわせ、2014（平成26）年12月までに黒田清輝関連のページを全面的に更新した。また、従来も公開していた「黒田清輝日記」の一部についてWordPressのブログ機能を応用し、年月日や本文の全文検索を可能にした。
- ウ) WordPressによるデータベースを引き続き随時整備・公開した。新たに公開したデータベースは「新海竹太郎関連ガラス乾板」「尾高鮮之助調査撮影記録」「和田新調査撮影記録」「日本美術年鑑所載物故者記事」「日本美術年鑑所載美術界年史彙報」「年紀資料集成」「久野健寄贈資料」である。
- エ) 従来のメールマガジンに加え、Facebook及びTwitterを用いた和英2カ国語による国内外の文化財関係者への情報発信を開始した。いずれも、活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を提供している。
- オ) ウェブサイトへのアクセス（訪問者数）は1,603,086件であった。

3. 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）への対応

文化庁委託事業「文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業」の一環として2014（平成26）年12月4日に開催した研究会「これからの文化財防災－災害への備え」の記録及び当該事業の報告書をウェブサイトで公開した。

ウェブサイトアクセスランキング（平成26年度 上位10位まで）

1	全体index	6	黒田記念館全体
2	黒田記念館資料編（日記、書簡、作品一覧等）	7	ガラス乾板データベース
3	『日本美術年鑑』 掲載物故者記事	8	企画情報部全体
4	『保存科学』 PDF	9	活動報告（日本語）
5	『日本美術年鑑』 掲載美術界年史（彙報） 記事	10	東京文化財研究所全体（日本語）

ウェブサイトの主な更新履歴（定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く）

年月日	更新内容	関係部局
14.04.15	『日本美術年鑑』（当研究所刊行） 掲載美術界年史（彙報） リニューアル	企画情報部
14.04.15	『日本美術年鑑』（当研究所刊行） 掲載物故者記事 リニューアル	企画情報部
14.04.18	和田新調査撮影記録 公開	企画情報部
14.04.22	パネル展示「海外の文化財を守る日本の伝統技術」	文化遺産国際協力センター
14.05.22	デジタルブック版 『未来につなぐ人類の技 13 御料車の保存と修復及び活用』 公開	保存修復科学センター
14.05.29	第15回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産管理における住民参加」開催案内	文化遺産国際協力コンソーシアム
14.06.04	シンポジウム「シリア文化遺産の保護へ向けて」開催案内	文化遺産国際協力センター
14.07.28	尾高鮮之助調査撮影記録 公開	企画情報部
14.08.28	国際シンポジウム「世界遺産としてのシルクロード—日本による文化遺産国際協力の軌跡—」開催案内	文化遺産国際協力コンソーシアム
14.09.17	第9回無形文化遺産部公開学術講座「流行歌としての道行き—『海道下り』を中心とした能・狂言歌謡の源流と広がり」開催案内	無形文化遺産部
14.09.18	第48回オープンレクチャー—モノ／イメージとの対話』開催案内	企画情報部
14.09.19	新海竹太郎関連ガラス乾板データベース 公開	企画情報部
14.10.06	研究会「これからの文化財防災—災害への備え」開催案内	文化財レスキュー受託事業研究会事務局
14.10.21	近代文化遺産に関する研究会「鉄道遺産の今後」開催案内	保存修復科学センター
14.10.21	第28回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「洋紙の保存と修復」開催案内	保存修復科学センター
14.11.05	第8回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「日光東照宮陽明門西壁面唐油蒔絵の調査と修理」開催案内	保存修復科学センター
14.12.08	黒田清輝日記 一部リニューアル	企画情報部
15.01.07	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会「染織技術をささえる人と道具」開催案内	無形文化遺産部
15.01.09	研究会「ミャンマーの木造建築文化」開催案内	文化遺産国際協力センター
15.03.16	久野健寄贈資料データベース 公開	企画情報部

研究組織

○二神葉子、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、城野誠治、橘川英規、福永八朗、河合大介、小山田智寛、高橋佑太（以上、企画情報部）

広報委員（情報システム部会）：川野邊渉（文化遺産国際協力センター長） 各部門情報システム部会員：高砂健介*1、平出秀文*2、中濱拓郎（以上、研究支援推進部）、津田徹英（企画情報部）、飯島満（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

*1 平成26年6月まで *2 平成26年7月から

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-14-4/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりをつまみ、①受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、②閲覧室で一般利用者を対象とした週3回（月・水・金）の所蔵資料の提供、③データベースの作成、検索システムの構築並びにウェブサイト上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

成 果

資料閲覧室の運営

1. 資料閲覧室の公開運営を行った（合計139日、利用者数のべ1,015人）。
2. 資料の登録と情報のデータベース化を行い、それを利用した外部公開用SQLデータの更新・運用を行った。
3. 貴重書のデジタル化を進めた。
4. 情報を外部公開データベースに登録し、基礎情報を一般に提供した。
5. セインズベリー日本藝術研究所（SISJAC）との「日本芸術研究の基盤形成のため事業」を継続し、VPN回線を通じて東京文化研究所刊行物アーカイブシステムに、SISJACが収集した欧米圏の日本美術関連情報の入力を開始し、713件の外部公開を行った。
6. 2014（平成26）年10月には皿井主任研究員がSISJACに赴き、システム及びデータ収集に関する協議を行い、あわせてSISJACの要請により、平安時代彫刻史に関する講演を行った。
7. 地方公共団体が刊行する文化財関連報告書のうち、東北地方及び関東地方の情報収集を終えた。
8. 田中室長及び橘川アソシエイトフェローが実行委員として、JALプロジェクト（委員長：加茂川幸夫東京国立近代美術館長）に参加し、招へい者の事前ヒアリング・研修における各種ガイダンス及び随行など、海外の美術資料専門家との交流・情報交換を行った。
9. 前年度運用を開始した「文化財関係文献データベース（統合試行版）」に、情報を追加し、東京文化財研究所定期刊行物のうち『保存科学』『無形文化遺産研究報告』のPDFの検索・閲覧が可能になった。
10. 資料受入数：和漢書2,459件、洋書18件、展覧会図録・報告書等4,621件、雑誌3,279件（合計10,388件）

企画情報部にて作成・更新中のデータベース

内部運用しているデータベースは、所蔵する写真資料、撮影調査票ほか多岐にわたっている。インターネットで公開しているデータベースには次のようなものがあり、これらは横断的に検索することが可能になっている。

- | | | |
|-------------|----------------|------------------|
| 1) 美術関係図書 | 5) 展覧会カタログ | 9) 画廊資料 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 6) 和雑誌 | 10) 文化財関係文献 |
| 3) 保存修復関係図書 | 7) 写真原板 | 11) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 4) 売立目録 | 8) 美術家・美術関係者資料 | 12) 伝統楽器情報 |

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、城野誠治、橘川英規、福永八朗、河合大介（以上、企画情報部）、飯島満*（無形文化遺産部）、佐野千絵*（保存修復科学センター）、吉田千鶴子（客員研究員）

*企画情報部併任

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (③無03-14-4/5)

目 的

無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。第1期中期計画（17年度終了）の事業案策定後に購入・寄贈されたアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成 果

1. 旧芸能部所蔵資料のうち、『歌舞伎新聞』創刊号（昭和28.12）から253号（昭和49.12）までのデジタル化を完了した。
2. 映像資料については、16ミリ（カラー）3本の媒体変換を行い、HDCAM 3本を作成した。
3. 音声記録のデジタル化は、インデックス付与済みCDを21枚作成した。
4. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
5. 無形文化遺産関連の映像資料205枚（作成DVD82枚・作成BD123枚）を所蔵資料として新たに登録した。

研究組織

○飯島満、高桑いづみ、久保田裕道、菊池理予、今石みぎわ、佐野真規、橋本かおる（以上、無形文化遺産部）

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-14-4/5）

目 的

研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、及び不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、1階エントランスロビーにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

成 果

1. 『年報』2013年度版の刊行

2014（平成26）年6月30日付で年報を刊行した。2013年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。

2. 『概要』2014年度版の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『概要』2014年度版を刊行した。概要は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2カ国語により簡潔に紹介している。各ページの構成の決定や原稿のとりまとめについては、各部・センターの概要担当者が行った。

3. 『東文研ニュース』の刊行（研究支援推進部企画渉外係が編集を担当）

『東文研ニュース』を和英併記により3回発行した。基本的にはウェブサイトに掲載した毎月の「活動報告」のうち、各部・センターで特に紙媒体でも広報したいとして選んだ記事を掲載する。この他、東文研ニュースには、文化財やその保護に関する特定の話題について見開き2ページにより紹介するコラムや、刊行物案内、人事異動などを掲載している。

4. パネル展示の調整

1階エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示した。26年度は前年度予算で作成した文化遺産国際協力センターによる「海外の文化財を守る日本の伝統技術」と題したパネルを4月21日に設置、3月29日まで展示した。また、26年度末に保存修復科学センターによる近代文化遺産に関するパネルを作成、2015（平成27）年3月30日に展示した。

研究組織

○二神葉子、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、城野誠治、橘川英規、福永八朗、河合大介、小山田智寛、高橋佑太（以上、企画情報部）

広報委員（概要部会）：岡田健（保存修復科学センター長） 各部門概要部会員：今城裕香（研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）

広報委員（年報部会）：田中淳（企画情報部長） 各部門年報部会員：平出秀文*1、長澤由美子*2、今城裕香（以上、研究支援推進部）、小林公治（企画情報部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、佐野千絵（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）

広報委員（東文研ニュース部会）：山梨絵美子（企画情報部副部長） 各部門東文研ニュース部会員：今城裕香（研究支援推進部）、津田徹英（企画情報部）、菊池理予（無形文化遺産部）、早川泰弘（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

*1 平成26年6月まで *2 平成26年7月から